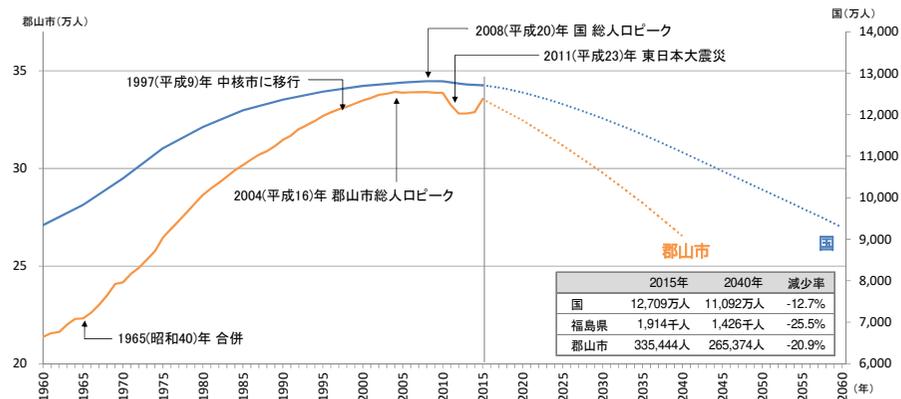


郡山市人口ビジョン(2020 改訂版) 概要版

1 人口の推移と現状

※本市の推計は、国立社会保障・人口問題研究所のデータを基に、国提供(福島県改定)ワークシートにより推計(推計期間:2015~2040年)



出典:国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」、郡山市統計書

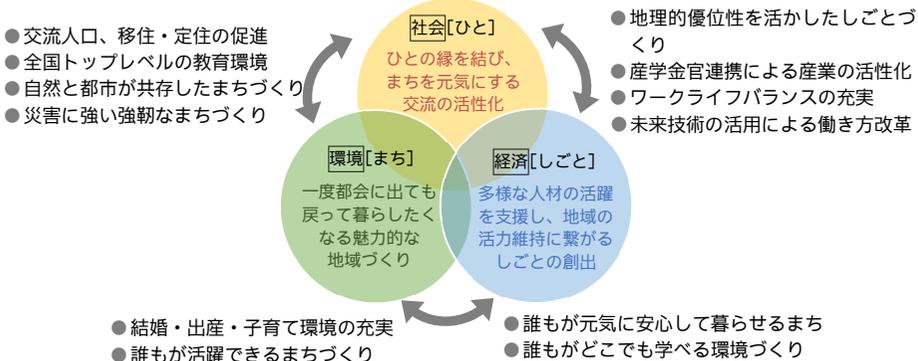
- ▶ 全国的な東京一極集中の影響により、若年層(特に20歳代女性)の転出が顕著
- ▶ 人口は2004年にピークを迎えたが、少子化と転出超過により緩やかに減少、震災直後に激減
- ▶ 震災後、転入超過により回復傾向にあったが、2017年には再び転出超過に転じ、人口減少が加速
- ▶ 2040(令和22)年には約26万5千人になると推計 少子高齢化に伴い人口構造も大きく変化

2 人口減少が将来に与える影響と将来展望

人口構造の変化が将来に与える影響

- ▶ 地域経済構造の変化に伴う生産・消費等の経済活動の変化
- ▶ 行政ニーズの構造変化に伴う公共サービス・施設の量質の変化
- ▶ 市税等歳入の減少・社会保障費等の増加による財政構造の変化
- ▶ 地域の文化、コミュニティ活動等の担い手減少、地域活力の低下

本市が目指す将来の方向性



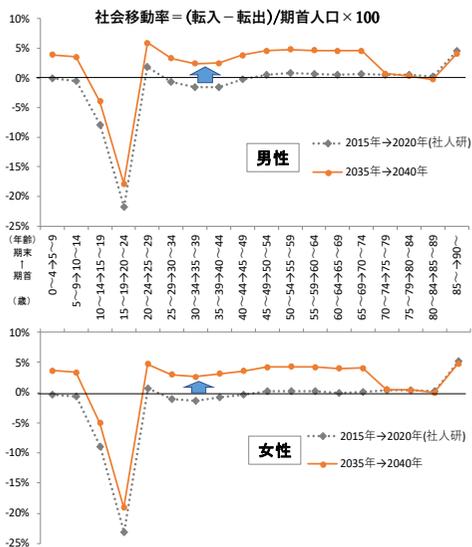
3 将来展望人口

人口減少社会における本市の役割

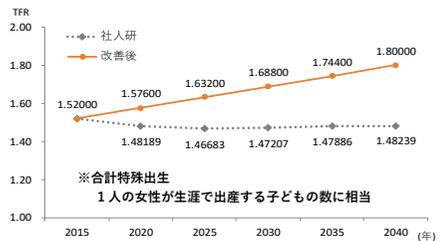
- ▶ 福島県の中核的機能であり中核市としての都市責任の遂行
- ▶ 「こおりやま広域圏」の中心市として圏域をリード
- ▶ SDGs 未来都市として SDGs 理念の普及、気候変動に対応できる持続可能な地域づくりを発信

▶ 2040(令和22)年以降も人口30万人規模であることが必要

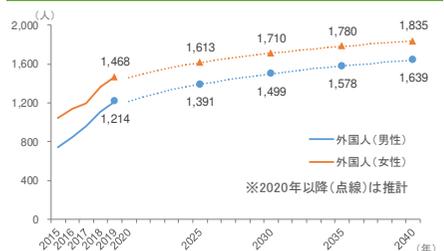
74歳までの社会移動率を段階的に改善(2040年時点で最大約4ポイント) ※現ビジョンの0~44歳を拡大



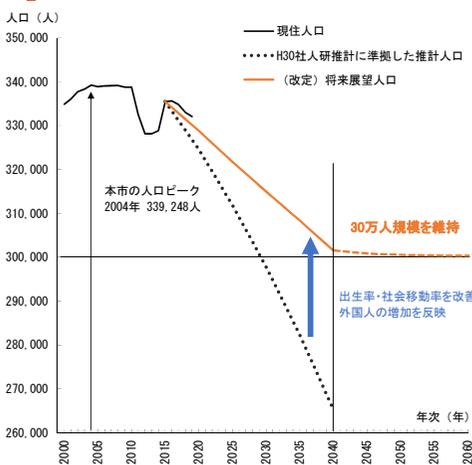
合計特殊出生率を段階的に改善(2014年1.49を2040年1.80へ)



新たに近年の外国人増加傾向を将来推計に反映

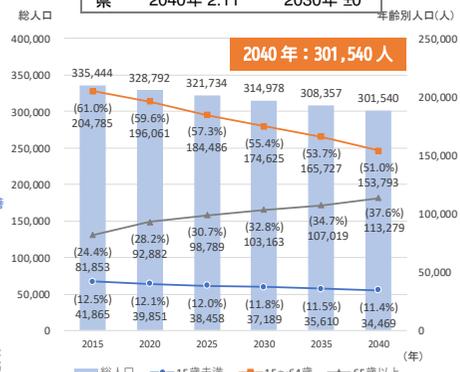


将来展望人口



(参考) 国・県の展望人口の設定

	合計特殊出生率	社会移動率
国	2030年 1.8 2040年 2.07	-
県	2040年 2.11	2030年 ±0



1 国の第2期総合戦略における「4つの基本目標と2つの横断的な目標」

【基本目標1】

稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする

- ・地域の特性に応じた、生産性が高く、稼ぐ地域の実現
- ・安心して働ける環境の実現

【基本目標2】

地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる

- ・地方への移住・定着の推進
- ・関係人口の創出・拡大
- ・地方とのつながりの構築

【基本目標3】

結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- ・結婚・出産・子育てしやすい環境の整備
- ・ワークライフバランスの実現

【基本目標4】

ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

- ・活力を生み、安心な生活を実現する環境の確保

横断的な目標2「新しい時代の流れを力にする Society 5.0、DXの推進」
地方創生SDGsの実現などの持続可能なまちづくり
地域における横断的な目標1「多様な人材の活躍を推進する」
ひとの活躍による地方創生の推進
誰もが活躍する地域社会の推進
多文化共生
多様なひと

⇒第2期(2020~2024)における地方創生の目指す将来の方向性

将来にわたって「活力ある地域社会」の実現

人口減少を和らげる	地域の外から稼ぐ力を高めるとともに、地域内経済循環を実現する	人口減少に適応した地域をつくる
結婚・出産・子育ての希望をかなえる		
魅力を育み、人が集う		

「東京圏への一極集中」の是正

2 郡山市総合戦略(2020 改訂版)の基本的な考え方

基本目標：「持続可能な郡山の創生」を加速させ、「自律的好循環」を生み出す

- 「**継続を力**」にバックキャストの下に生かし、2015年度に策定した本市総合戦略からの経路依存性を保持しつつ内容をアップデート
- これまでの総合戦略に基づく取組におけるKPI等の達成度を評価検証するとともに、引き続き**ローリング方式により進捗管理を継続**
- SDGsを上位概念とし、5G、society5.0、関係人口など国が第2期総合戦略で示す基本目標に対応するため、**デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進、本市SDGs未来都市計画、こおりやま広域連携中枢都市圏ビジョンと連携**
- **産官学金労言士の多様な主体の参画**により策定

3 郡山市総合戦略(2020 改訂版)分野別政策パッケージ

基本目標1：DXに対応した生産性の向上と魅力ある雇用環境の創出

圏域内外の多様な研究機関と連携した経営拡大や多角化、海外進出支援、起業・創業や地域企業の事業承継への環境整備と、安心して働ける良質な就業機会の創出

【数値目標】

○小売業商品販売額
現状値：14,029億円(R1) 目標値：12,047億円(R6)
○製造品出荷額
現状値：7,101億円(R1) 目標値：7,464億円(R6)
○新たな企業立地に伴う新規雇用者数
現状値：325人(R1) 目標値：500人

【政策パッケージ】

施策1：「知の結節点」としての優位性を生かした積極的な企業誘致と新たな市場開拓
施策2：多様な学術研究機関と地元企業が連携した地方発イノベーション
施策3：農林業のICT化と構造改革による成長産業化
施策4：誰もが安心して働くことができる魅力的な就業環境と担い手の確保

基本目標2：地域の魅力発信と「関係人口」の創出

安積疎水に代表される豊かな地域資源と拠点都市としての強みを生かし、多くの方が郡山に「住む」・「訪れる」流れの創出様々な地域とのつながりの創出と、人材の定着・還流の推進

【数値目標】

○社会移動率
現状値：- 目標値：最大4ポイント改善(2040年)
○交流人口(観光入込客数)
現状値：503万人(R1) 目標値：500万人(R6)

【政策パッケージ】

施策1：地域資源ブランド化による海外も含めた観光誘客と情報発信
施策2：地域の特色ある歴史、音楽などの文化振興とスポーツ環境の充実
施策3：地方への人の流れをつくり、地方を訪れ住み続けるための移住・定住環境の整備と「関係人口」の創出

基本目標3：切れ目無い子育て支援と女性・子育て世代の活躍推進

結婚・妊娠・出産・育児の希望をかなえ、もう一人子育てられる切れ目ない支援及び女性が社会参加できる環境の創出

【数値目標】

○合計特殊出生率
現状値：1.47(H30) 目標値：1.48(R6)
○自然増加数(年間)
現状値：-人(R1) 目標値：-人(R6)

【政策パッケージ】

施策1：結婚～妊娠～出産～子育ての切れ目ない支援
施策2：子どもたちが健やかに成長できる地域づくり
施策3：全てのひとが働きやすくなる働き方改革の実現

基本目標4：住民・企業が集う気候変動対応型まちづくりの推進

中枢中核都市として、ひとや企業が集い、安心して暮らせる気候変動対応型のまちづくりとセーフコミュニティの実現

【数値目標】

○セーフコミュニティ認証取得及び活動の継続
現状値：調査中(R1) 目標値：検討中(R6)
○こおりやま広域圏における人口
現状値：調査中(R1) 目標値：検討中(R6)

【政策パッケージ】

施策1：災害、事故・犯罪のない安全・安心なまちづくり
施策2：新たな技術を活用した持続可能な公共・社会基盤の構築
施策3：地域連携により暮らし続けられる都市圏の形成

基本目標5：あらゆる世代が居場所と役割を持ち生きいきと暮らせるまちづくり

社会全体で支えあい、誰もが将来に渡り安心して健やかに暮らせる「生涯現役の社会づくり」の実現

【数値目標】

○元気高齢者数
現状値：68,323人(H30) 目標値：72,000人(R6)
○特定健康診査の受診率(郡山市国民健康保険被保険者)
現状値：38.2%(H30) 目標値：60.0%(R5)

【政策パッケージ】

施策1：高齢者が健康で活躍し続けられるまちづくり
施策2：住民が多様な主体が支え合えるやさしい地域づくり
施策3：あらゆる住民・世帯が安心して健康に暮らせる社会の構築

基本目標6：教育の質の向上と誰もが楽しく学べる環境づくり

ICTの進展やグローバル化に対応した、一人ひとりの心が充実する教育環境の整備と地域を担う人材の育成

【数値目標】

○市民意識調査における「生涯学習」の満足度
現状値：調査中(R1) 目標値：調査中(R6)

【政策パッケージ】

施策1：AI等も活用した先進的な教育による質の向上
施策2：世界的視野で活躍できるグローバルな人材の育成
施策3：誰もが学ぶことができる学習機会の確保・充実